様式３

会　議　記　録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

<table>
<tr><td>審議会等名称</td><td colspan="3">令和５年度　第３回近江八幡市脱炭素推進協議会</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">令和６年２月６日（火）　１４時００分 ～ １５時３０分</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="3">近江八幡商工会議所 ２階 大会議室
（近江八幡市桜宮町２３１－２）</td></tr>
<tr><td>出席者
※会長等◎
副会長等○</td><td colspan="3">【出席者】※敬称略、順不同
平岡俊一（◎）、金再奎、来田博美、根木山恒平、西村亜智、林田憲明、成田義幸、小西信弘（○）、西川進、岡明子、森井英行、澤井保、大林一裕

【代理出席者】
西山悟（木村茂委員に代わる）
渡辺英一（岡田清久委員に代わる）

【欠席者】※敬称略、順不同
延藤裕之、吉田栄治、小玉恵、岡敦哉

【傍聴者】
なし</td></tr>
<tr><td>次回開催予定日</td><td colspan="3">未　定</td></tr>
<tr><td>問い合わせ先</td><td colspan="3">所属名、担当者名　総合政策部企画課　野田（のだ）
電話番号　0748-36-5527
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　010202@city.omihachiman.lg.jp</td></tr>
<tr><td>会議記録</td><td>発言記録 ・ 要約</td><td>要約した理由</td><td>内容を整理して、分かりやすく記録として残すため。</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="3">別紙のとおり</td></tr>
</table>

担当課⇒総務課

１．開　会

事　務　局　　省　略

２．会議資料の説明

事　務　局　【第２回協議会の振り返り】

- 第２回協議会では、「ネイチャーポジティブ」「ゾーニング」といったキーワードが挙げられた。
- 不用意な再エネ開発は、自然生態系や地域性を損なわせる恐れがある。地域の文化や景観を保全しつつ再エネ導入を目指す、「ゾーニング」の考え方が重要となる。
- 計画の推進体制について、「担い手」の育成が重要な課題となる。子どもたちの教育と併せて教育をする先生・指導者への研修・啓発が重要になる。
- 企業間或いは組織間で情報共有・交換ができるプラットフォームがあれば、考え方や取組を共有することができる。

【資料１：近江八幡市脱炭素実行計画（素案）について】

- 第１章では、地球温暖化による気候変動は人間活動に起因するものという前提で、現在、世界各地や国内、滋賀県内でも気候変動の影響が及んでいることをまとめた。
- また、気候変動問題に対して、世界や日本が講じてきた対策や法改正等の流れについて整理した。
- 第２章では、人口や産業動態のほか、二酸化炭素排出量やエネルギー消費量、再生可能エネルギー導入量など、本市の実態について整理した。
- また、本市では、農業が古くから盛んに行われてきたことから、コラムで農業分野について取り上げた。
- 第３章では、令和４年度に実施した脱炭素ワークショップ等の結果を踏まえて、本市の将来ビジョンについて整理した。
- また、ビジョンの実現に向けて二酸化炭素削減目標及び再生可能エネルギー導入目標を設定した。
- 第４章は、脱炭素ビジョンや目標達成に向けたプロジェクトについて定めるものである。
- プロジェクトは、それぞれ「重点プロジェクト」「普及促進プロジェクト」「調査研究プロジェクト」「ならではプロジェクト」と４つ設定し、２０３０年に向けては、重点およびならではプロジェクトを推進したい。
- 第５章は、計画全体の推進体制について定めるものである。脱炭素の取組は、行政、市民、企業など様々な主体が協力することが重要であり、

各主体の役割についても記載をした。

【資料２：令和６年度の実施内容、スケジュール(案)について】

- 計画を策定しておわりではなく、計画の推進に取り組むことが重要と考えている。より多くの市民や事業者、企業の方に見てもらえるよう広報・周知に注力するとともに、計画の賛同団体を募集したいと考えている。
- 賛同の方法、インセンティブ等については検討しているところ。
- また、賛同団体から、今後の脱炭素まちづくりを担うキーマンを発掘していきたいと考えるため、賛同団体に対する働きかけ、意識醸成の取組等についても併せて検討していきたい。

【意見交換に関する説明】

- 議題に入る前に、事務局より意見交換の内容について説明を行った。

３．議　題（意見交換）

委　　員

- 今回の計画では、次に繋がるプロジェクトを既に描いているところが実現可能性の観点から評価できるところ。
- 課題は、この計画を担う主体・人材をどう育成するのかといった点。協議会を中心として、リーダーシップを発揮しながら取り組んでいけるとよい。
- 近江八幡の中だけで、主体が不十分であるならば、外部の人材を入れていくことも考えられる。
- 令和６年度以降、プラットフォームの形成やマッチング支援のみならず、そこからどう取り組んでいくのか、色々な団体が連携する中で、お互いが Win-Win の関係になるよう実行性を持ったものにしていただきたい。

委　　員

- 主に２点を申し上げたい。計画に対する感想と提案である。
- まず、計画全体の感想について、新たな時代の要請を踏まえて気候変動や脱炭素、ネイチャーポジティブ、ＳＤＧｓなどの要素を盛り込みつつ、市の内部からの要請を市民ワークショップという形で汲み取って位置づけられており、全体的に良い計画であると思う。
- 提案について、理念のように大きな社会像と細かい数値が入り混じっているので、分かりにくい部分がある。数値など、細かい部分を再度、調整しながら全体的なストーリーを描いてもらいたい。
- また、脱炭素が目的ではなく、市の環境・経済・社会統合的な行動が目的であるため、国の省エネ対策を沢山取り組むことも重要であるが、計画に定めるプロジェクトの進捗管理の指標について検討されたい。

会　　長

- これから期待が持てる計画に仕上がってきているが、計画をどう実行するのか進捗・推進体制が重要となってくる。
- 地域新電力やエネルギーエージェンシーなどは、自治体独自で実施する事例もあるが、今後、自治体を超えて、広域的な連携をする方が効率的

な部分も出てくると思う。広域連携という観点を見据えて取り組むことが望ましい。

- 非常に書きにくい内容であるが、行政内部の推進体制について、もう少し言及をいただきたいと思う。

委　　員

- 省エネは、脱炭素の取組の中で最も身近なものであると思う。市民の省エネに対する意識を把握することが必要である。
- 近江八幡らしさを考えるときに、本市では農業が基幹産業である。農業分野において、近年、スマート農業や営農型太陽光発電の取組が進められており、成功している事例もあるので、協議会のメンバーで視察等をしても良いのではと思う。

会　　長

- 先進的な取組の勉強会や視察をすることはとても興味深い。
- 市民の省エネ意識について、他の自治体ではアンケート調査を実施するところも見られるが、近江八幡市では実施されているのか。

事　務　局

- あると思うが、今すぐにデータを提示することは難しい。

会　　長

- データがあれば、後日、提供をいただきたいと思う。
- 調査・研究という意味で、近江八幡市でのエネルギー消費の実態や人々の生活様式などを把握することは重要であるため、検討いただきたい。

委　　員

- 質問として、計画３２頁の再エネポテンシャルの部分で、土地系太陽光発電はどういった係数で試算をされているのか。
- また、森林吸収量の推計方法についても、併せてご教示いただきたい。

事　務　局

- 太陽光発電のポテンシャルについては、環境省ＲＥＰＯＳにおける推計値を採用しており、推計根拠について調べたうえで、後日、回答をさせていただきたい。
- 森林吸収量の推計方法は、環境省の「地球温暖化対策実行計画策定マニュアル」に基づいており、参考資料２の２０頁のとおり推計を行った。

委　　員

- 森林吸収量を加味するためには、森林をきちんと管理する必要があり、管理された森林のみ、吸収量として推計できることとなる。

会　　長

- すなわち、単に木が生えていれば良い訳ではない。森林をきちんと管理したうえで、森林吸収量としてカウントすることを計画に記載されたい。

委　　員

- 市民参画という意味で、市民に対する見せ方を重視してもらいたい。長期計画に対して、プロジェクトの進捗を測ることは難しいが、市民に対する見せ方を工夫することで、省エネ・脱炭素に関する意識が高まってくるのではないか。

委　　員

- 農業分野の議論について、行政としては、民間の力を借りて進めていくことが重要と考える。
- 本市では、スマート農業に関する補助金や有機農業を実践する団体に対する支援策として、予算を計上しており、資金援助をはじめ民間が動きやすくなる環境を整備することが重要と考えている。

会　　長	● 民間の方々が活発に動けるようになる仕組みづくりは重要である。 ● 資金的な面も重要だが、専門知識・専門的知見をアドバイスできる支援組織、人材の確保も併せて重要となる。
委　　員	● 計画４８頁から６０頁のシナリオの対応関係がいまいち理解できなかったので、再度、整理をされた方が良い。 ● 近江八幡市が目指すシナリオを１本描いて、その内訳を詳細に補足する形が見やすいと思うので、検討いただきたい。
事　務　局	● 数値の精査と見せ方について、事務局で整理をさせていただく。
委　　員	● 計画２８頁の再エネ導入状況の表で、風力・水力・地熱だけ表記がパーセントとなっているが、これは誤りか。
事　務　局	● 記入誤りと思われるので、修正をさせていただく。
委　　員	● 計画５４頁のコラムで、「森林吸収量はそれほど大きな効果が期待できるものではない。」という表現があるが、この文章だけみると森林はあまり大切ではない印象を受けてしまう。 ● 後段に、森林の多面的な機能など、非常に良い内容が書かれているので、ニュアンスが適切に伝わる表現の仕方があれば検討いただきたい。
会　　長	● 二酸化炭素削減量としては大きくないが、森林には様々な社会的・自然的機能があることを上手く表現できると良い。 ● 数値の表記で、漢数字の千という単位を用いているところがあり、個人的な意見だが、一目で数字が頭に入ってこないので、優しい表記で書いていただけると良いと思う。
副　会　長	● 色々とモデル的な取組の提案をいただいているが、行政一本ではなかなか難しい。 ● 地域ごとに試験的に始めていくことも考えられる。例えば、駅前や市役所などの市街化区域と山村・農村とでは、取組内容も全く異なる。 ● 近江八幡市は観光も特徴となってきており、他府県から自動車で来られることも多い。地球に優しいあり方として、公共交通機関の利用促進に向けた取組をもう少し検討されてはどうか。
会　　長	● 観光シーズンの交通渋滞は、他の自治体でも深刻な問題となっており、季節性が一定あるので、対策も取りづらい問題であるが、非常に重要な指摘である。
事　務　局	● 以前から、ゾーニングについてのポイントをお話いただいていたので、プロジェクトとして進めていきたいと考える。 ● また、観光については、計画７８頁のとおりプロジェクトの一つに位置づけ、脱炭素と観光を掛け合わせた取組を色々と提案を受けながら進めていきたいと考える。
会　　長	● これから、脱炭素事業を推進するうえで、資金調達の部分が大きなテーマとなる。ＰＰＡ事業でもなかなか資金が借りられないと悩む事業者や

自治体があると耳にしている。

- 近江八幡で金融機関の方々と一緒に勉強会の機会を設置するなど、脱炭素だけでなく、持続可能な地域づくりやＳＤＧｓといった広い分野での議論を深めても良いと思う。
- 環境、社会、地域経済、地域資源活用型ビジネスの展開など、金融機関、行政、専門家の方々と一緒に議論できるモデルがあれば面白い。

４．事務連絡等

会　　長

- 令和５年度の協議会は、今回が最終であり、協議会としてひとまず計画は完成である。
- ただし、計画は今後も少しずつ手を加えながら完成度を高めていく必要がある。
- 大切なことは、計画をどう推進するのか。協議会は、令和５年度で終わりでは無くて、令和６年度以降も継続して議論を続けていくとのことで、計画の完成度をより高めたり、具体的な実行に向けた体制を構築したり、引き続き、皆さまの協力をいただきたい。

事　務　局

- 数値や表現の細かい部分までご意見をいただいたので、事務局で修正し、計画の完成度を高めてまいりたい。
- 計画を推進するうえで、行政のイニシアティブは重要であるが、行政だけでは限界もある。協議会のメンバーを中心として、施策の推進に向けて今後もお力添えをいただきたい。
- 令和５年度のスケジュールについて、本日の協議会後、意見を反映した形で庁内照会、パブリックコメントを実施する予定。
- したがって、本日の協議会後も計画の内容等に変更が生じる可能性があり、委員のご意見を全て反映した形にできるとは限らないが、それぞれの施策の中で反映していけるように尽力したい。

５．閉　会

事　務　局　　省　略

終了　１５時３０分